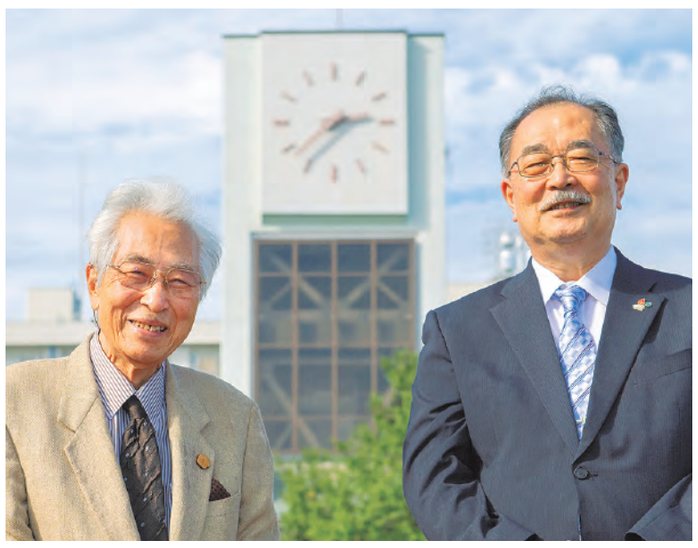
高知大学
Kochi University

地域を支え、地域を変えることができる大学へ
75th 2024
Super Regional University
RU×S⇒SRU

高知大学と高知医科大学との統合20周年
地域を支え、地域を変えることができる大学へ
～高知大学は2024年に創立75周年を迎えます～

2024（令和6）年に創立75周年を迎える高知大学。20年前の03（平成15）年10月に高知医科大学と統合し、新たな高知大学としてスタートしました。翌年の04（平成16）年4月には運営主体として国立大学法人が設立され、独自の経営が求められるようになりました。地域の大学となるべく変革を続けてきた20年の歩みについて、櫻井克年学長と相良祐輔元学長にお話を伺いました。

（聞き手＝高知新聞社営業局長・伊藤能一）



少子化を背景に統合 「4つのC」で変革 地方大学から地域の大学へ

―高知大学と高知医科大学が統合し、20周年。統合の背景を教えてください

相良　私の専門は産婦人科ですが、1976（昭和51）年ごろに出生数の陰りが出てきて、このままでは日本は大変なことになると警鐘を鳴らしました。懸念通り、20年後には18歳人口が減り始めました。

すると「国立大学が多過ぎる」という議論が生まれ、研究を主体とした大学の再編が行われるようになりました。単科大学と総合大学の統合だけでなく、大学と大学の統合も進みました。

また、昭和の中期から議論されていた国立大学の法人化が現実のものとなり、国立大学の運営は各大学に任され、効率的な経営が求められるようになりました。それに合わせて日本中で大学の統合が始まり、県内では高知大学と高知医科大学の国立2校が統合することになりました。

―統合によって、高知大学はどのように変わろうとしたのですか？

相良　私が新生高知大学の学長を務めることになり、何をやるべきかを考えました。大学をなくすわけにいかない。この統合という変化をきっかけに、高知大学は変わらなくてはいけない。そこでCHANGE（変化）、CHANCE（好機）、CHALLENGE（挑戦）、CREATE（創造）の「4つのC」を掲げて変革に挑みました。変化をチャンスと捉えて挑戦し、挑戦する限りは何かを生み出すべしと。そして、創造によってまた変化が起こります。このサイクルが回れば、高知大学はどんな嵐が来てもびくともしない大学になると思いました。

櫻井 克年 学長

高知大学は、地方の大学から地域の大学へと変化する。そして、それを評価するのは地域の目です。地域の目に鍛えられ、地域の目に応え、そして地域のアベレージを上げる大学を目指しました。

地域協働学部を新設 教育組織の改組を行い 地域と共に歩むSRUへ

―統合後、経営のバトンは相良元学長から脇口前学長、そして櫻井学長へ。どのような思いで経営に当たってこられましたか？

櫻井　統合して国立大学法人となって以来、「地域に根差す大学」となるべく、第1期：地方の大学から地域の大学、第2期：地域になくてはならない大学、第3期：地域と協働できる大学を目指して改革を行ってきました。各期は6年で、最初の8年を相良先生が、第2期の3年目から第3期の2年目までを前学長の脇口先生が率いてこられました。第3期の3年目から私が引き継ぎ、今は「地域を支え地域を変えることができる大学」を目標とする第4期の2年目です。

私は初期の頃から執行部として改革に関わってきましたが、新生高知大学が「地域に根差す大学」になるためには教育改革が必要と考え、2015（平成27）年から学部、大学院を改組しました。最初に地域と歩む大学の象徴となる地域協働学部を創設し、第3期の終わりに改組が完了しました。

また、2018（平成30）年に私が学長になり、「4つのC」のような象徴的な言葉が必要だと感じ、「SRU（Super Regional University＝地域の大学の一等賞）」を提言しました。当時、「Super Global University」という言葉が出てきていましたが、Super Globalがあるならsuper Regionalもあってしかるべきだと。地方創生の時代に合った、地域に根差す大学を体現する言葉として掲げています。

統合がもたらした 学部連携と地域連携 唯一無二の地域の大学へ

―高知医科大学から高知大学医学部となって、どのような変化がありましたか？

相良　やはり、各学部との連携ができてきたということです。櫻井学長は医農工連携に取り組んでおられます。命を扱うということにおいて医学と農学は緊密な関係にあり、非常に有意義なことです。私が創設した先端医療学推進センターも、農学部の人たちに入ってほしいという思いがありました。実際、何人かは先端医療の研究に関わってくれています。

相良 祐輔 元学長

現在、私は臍帯血（さいたいけつ）幹細胞輸血治療の研究をしていますが、理工学部の学生がサポートをしてくれています。国際的にも注目される有益なデータが出ていて、彼らが有能な科学者として認められ、活躍することを期待しています。

櫻井　医学部には、がん細胞を光らせる光線医療など突出した先端医療の研究プロジェクトがある一方で、地域にぐっと寄り添った医療学もあります。地域医療の現場で実習を行う「家庭医道場」は、その最たるものです。医学科・看護学科の学生が、実際に馬路村や梼原町の中山間地域に入り、地域に向き合う経験をすることで地域医療の道に進みたいと思う学生も出てきています。このような形で地域に必要な人材を育てている大学は他に類を見ません。高知大学医学部は、先端医療と地域医療の両輪を回しています。

―地域に輝く魅力ある大学づくりに力を入れてこられたお二人ですが、今後、相良元学長はどんな高知大学を期待されますか？

相良　今、受験人口が減る一方で、大学の数は増えており、定員割れしている大学が5割に達します。そのような状況下で、大学は人を育てることよりも経営を維持する方に力を入れ、教育の環境が商業化する危険性が高まっています。

これからの時代、高知大学に必要なのは、地域の大学として生き続ける姿勢を失わないことです。それは単純に地域の景気を良くするということではなく、地域の底上げをするということです。そのためには、文系・理系の考え方をなくして、学生が本当に学びたいのは何かをリサーチする必要があります。それを数字で見るのではなく、わが子の心の内を読むように分析し、意欲を持って学べる大学になってほしいです。そうすれば必ず発展し、県民の皆さんに「高知には高知大学が必要だよね」と思っていただけるはずです。

―櫻井学長は、これからどのようにかじを取っていかれますか？

櫻井　大学は人を養成するところです。資源が乏しい日本で、最も大事な資源は人です。そこをしっかりと見据えて、10年先、20年先のことを考えなくてはいけません。国の将来のことを考えると、少子化や国の台所事情を理由に国立大学をなくすべきではないと考えます。

私はかつてカナダのサスカチュワン大学にいましたが、キャンパスはいつも市民であふれていました。大学が大事なコミュニティーの場になっているので、大学をなくすとなったら市民が黙っていません。高知大学もそんな大学を目指したいです。この夏は、よさこいの演舞場を運営し、地域の人たちがたくさん来てくださいました。楽しそうに過ごしているのを見て、これまで人を呼び込む工夫ができていなかったのだなと気付きました。

家庭医道場

私の方針は「SRU」です。地域の大学として、日本国内だけでなく世界的にも一等賞を目指します。「地域の大学で一番頑張っているのは？」という問いに、あらゆる人に「高知大学」と言ってもらえる大学になる。それが高知大学が目指すべき方向性です。私の任期はあと半年ですが、次期学長にしっかり引き継いでいきます。

よさこい演舞場

―来年は創立75周年を迎えます。その節目に向けての取り組みを教えてください。

櫻井　75周年を機に、高知大学の応援団を結成するよう動いています。「県民が皆、『高知大学生』」というキャッチフレーズの下、高知大学の卒業生に限らず、大人も子どもも誰でも入れる「高知大学校友会」をつくります。応援の気持ちが一番ですから、会費はいただきません。

現在、まずは卒業生の皆さんに高知大学に改めて関心を持ってもらうことから始めています。調べてみると、県職には約600人、高知市職にも約350人の卒業生がいることが分かり、県内34市町村を行脚しました。各地で卒業生の拠点を作り、そこからさらに地域の人を本学の応援団に招きたいと考えています。

これからも、地域にとって「ないと困る！」高知大学となってまいります。ぜひ、県民の皆さまには一丸となって応援していただけますよう、よろしくお願いいたします。

広告特集
Going
「Going」は、周年を迎えたり、新たな展開に向けて節目を迎えた企業・団体を紹介する広告シリーズです。
企画・制作　高知新聞社営業局

創立75周年ロゴマーク
躍動する人の姿をSRU（Super Regional University）のアルファベットでデザインしています。またRU×S⇒SRUは、高知大学が目指すRU（地域の大学）からSRU（地域を支え地域を変えることができる大学）への変革を表現しました。

高知大学さきがけ志金
高知大学創立75周年記念事業実施のためのご寄附をお願いします。

校友会に入会して つながっちょかんかね!?
＼2023年11月「高知大学校友会」設立！！／
高知大学とご縁のある方ならどなたでもご入会いただけるコミュニティです。
●「よさこい演舞場」、「ホームカミングデー」など、大学キャンパスに足を運んでいただける様々なイベントを企画し、ご招待します！
●大学ならではの学びのコンテンツを多数ご用意します！
●大学の情報を発信したり、校友間の情報交換や交流を促進させます！
＼県民が皆／「高知大学生」構想
高知大学生をみんなで応援して、高知を元気にしませんか？！
事前入会受付中　ー会費無料ー
事前入会いただいた方には、詳細情報を随時お知らせいたします。

第13回 高知大学ホームカミングデー2023
おかえりなさい
高知大学ホームカミ2023
2023 11.4（土）
［場所］高知大学朝倉キャンパス（高知市曙町2丁目5-1）
［時間］9:00～16:00
主催／国立大学法人高知大学、高知大学同窓会連合会
SPECIAL GUEST ステージイベント 10:00～12:30
高知大学ホームカミは、年に一度、高知大学とご縁のある全ての方々との絆を深めることを目的としたイベントです。
自治体ブース
●室戸市 ●安田町
●香南市・香美市・南国市
●四万十町
●黒潮町 ●大川村
高知大学の取り組み紹介 ＼施設開放／
事前申込制
申込フォーム▶
申込締切 10/31（火）
締切間近 申込はお早めに！
特別講演「俳句のある人生」
俳人 夏井いつき氏
写真：御厨慎一郎
高知県の自然豊かな清流のシンボル「あゆ」を守る！
高知大学公認クラウドファンディングへのご支援のお願い
ご寄付のお願い
■11月30日（木）23時まで
■目標金額：300万円
高知大学 あゆ レディーフォー　検索
プロジェクト詳細・ご寄付はこちらから https://readyfor.jp/projects/kochiayu
「高知大学創立75周年記念事業」を応援しています。
四国銀行　NKK ニッポン高度紙工業株式会社　高知銀行　岸之上工務店
高知大学 Kochi University
お問い合わせ
高知大学基金・校友事業課〈担当：黒川〉
TEL 088-844-8752　Mail：kn05@kochi-u.ac.jp